

「技術の日本道路」の永続的な進化へ

2029年の創立100周年事業の一環として、茨城県土浦市に延べ4万平方メートルの複合施設を整備します。『技術の日本道路』の永続的な進化の実現をコンセプトとした本施設は、技術研究施設、社員研修施設、機械センターから構成され、2024年4月の運用開始を目指します。



アスファルト合材センターで100%再生エネルギー導入

北関東支店（1カ所）、北信越支店（4カ所）、北海道支店（8カ所）のアスファルト合材センター（JVプラントにおいては、当社がメインとなる拠点）で使用する電力を、2022年4月1日より100%再生可能エネルギーに切り替えました。当社グループでは、2050年のカーボンニュートラル実現に向けた取り組みとして、今後も事業拠点の再生可能エネルギー導入を順次進めて参ります。



栃木県小山市長より感謝状を授与

小山市が主催する「渡良瀬遊水地ヤナギ・セイタカアワダチソウ除去大作戦」に2020年から参加しています。その功績が認められ、2022年3月29日に感謝状が授与されました。今後も継続して参加していきます。



建設技術公開「EE東北'22」に出展

2022年6月1日・2日に夢メッセみやぎにて開催された「EE東北'22」に出展しました。PETアスコンや快適歩走等を展示し、多くの方にご来場いただきました。また、新技術プレゼンテーションでは新工法のPETアスコンについて製品紹介を行いました。



飲み物を買って日本赤十字社へ支援

東京支店千葉営業所では、2021年3月から寄付型自動販売機を設置しています。飲み物を1本買うと3円が日本赤十字社へ寄付され、寄付されたお金は、日本赤十字社の活動資金となっています。

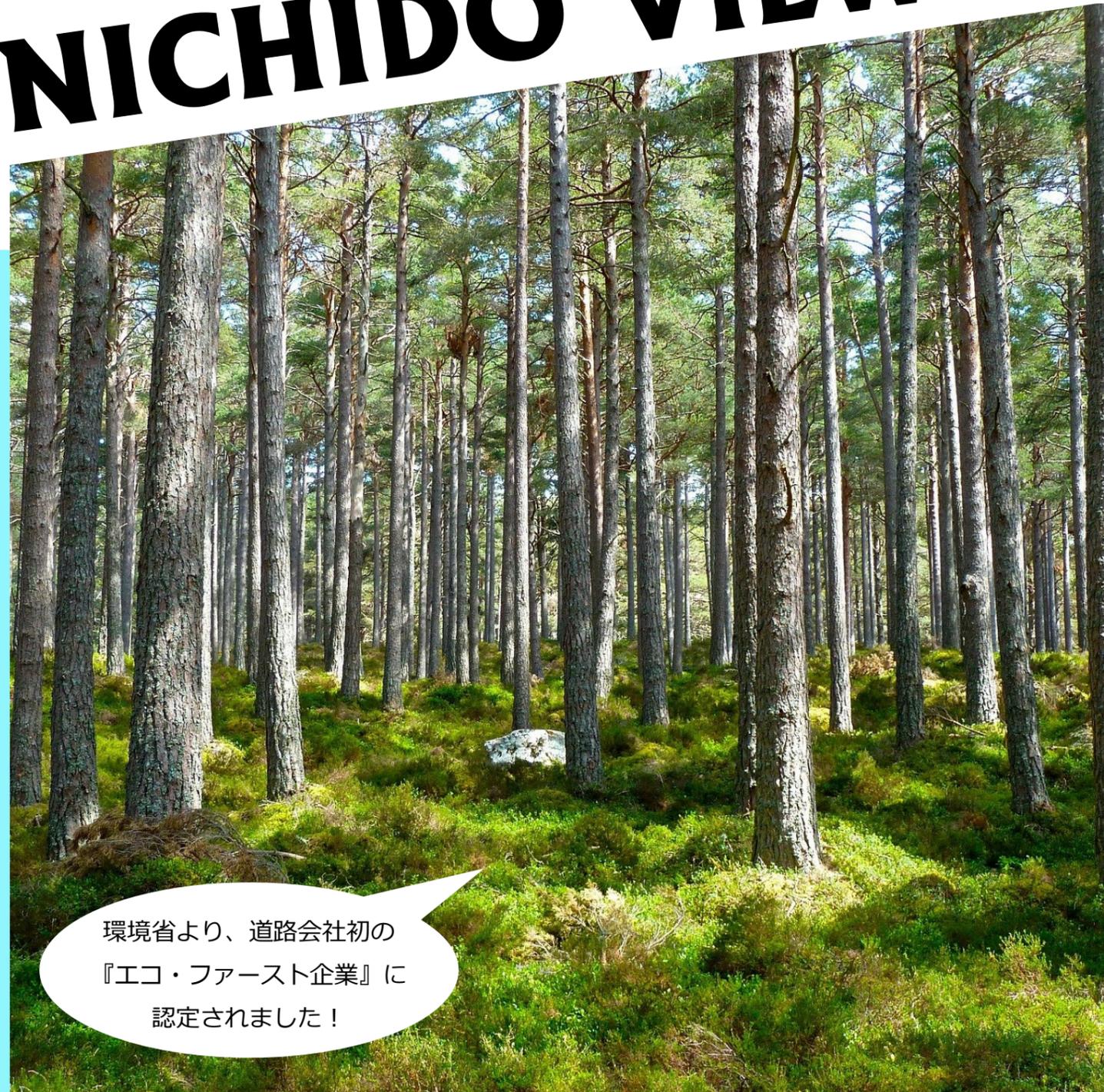


『NICHIDO VIEW』創刊について

得意先や学校関係、今まで日本道路グループを知らなかった方々に環境やDX（デジタルトランスフォーメーション）など、現在日本道路グループが取組んでいることをリアルタイムにお伝えするために「NICHIDO VIEW」を創刊しました。今月から情報投稿ボックスの運用を開始し、社内から投稿された情報をワーキンググループで編集して発信していきます。それには、社員全員がアンテナを張り巡らすことが必要です。何気ないことでも「この取組みは社外へアピールできる」「これは他支店にも知ってもらいたい」と少しでも思ったら積極的に投稿してください。当社の取組みを全員で発信していきましょう！

発信力強化ワーキンググループ

NICHIDO VIEW



環境省より、道路会社初の『エコ・ファースト企業』に認定されました！



環境先進企業として 地球環境保全に取り組みます！



認定式の様子（左：環境省環境事務次官 中井 徳太郎氏、右：当社代表取締役社長 久松 博三（当時））

2022年2月22日(火)、環境省の「エコ・ファースト制度」に基づく日本道路株式会社の地球環境保全の取組みに関し、環境大臣に「エコ・ファーストの約束」を行い、「エコ・ファースト企業」として認定されました。日本道路グループは、道路建設を通じて社会の発展や地球環境の保全に貢献するため、2021年8月に環境ビジョン「Nichido Blue&Green Vision2050」を策定しました。今後は、「エコ・ファーストの約束」を順守しながら、環境ビジョンを推進して地球環境の保全に取り組めます。

「エコ・ファースト制度」とは？

企業の各業界における環境先進企業としての取り組みを促進することを目的として、企業が環境大臣に対し、地球温暖化対策、廃棄物・リサイクル対策など、自らの環境保全に関する取り組みを約束し、その目標や実施プロセスが、「先進的、独自のかつ業界をリードする事業活動」を行っている環境先進企業であることを、環境大臣が認定するという制度です。



認定を受けた企業は、「エコ・ファースト」マークを使用することができます。環境先進企業としての周知と、社員の意識を高めるために名刺やヘルメットにこのロゴマークを活用しています。

日本道路の「エコ・ファーストの約束」

- 01 事業活動を通じたCO2総排出量削減を推進し、2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現に貢献します。
- 02 廃棄物の発生を抑制するとともに、技術開発により、さらなる循環型社会の形成に貢献します。
- 03 事業活動全般を通じて生物多様性、生態系保全の確保に配慮し、自然とともに共生する取り組みを推進します。
- 04 「人」、「社会」、「環境」にやさしい企業を目指し、役職員一人一人が環境保全活動に取り組めます。

Nichido Blue & Green Vision 2050

日本道路グループは、環境負荷低減により持続可能な「道づくり」「街づくり」に貢献します。

【カーボンニュートラルの実現】
CO2排出量の実質「0」達成

【循環型社会の形成】

2035年までに再資源化率100%達成、建設混合廃棄物の排出率を0.1%以下

【生物多様性への配慮】

2025年までに全ての支店で生物多様性の保全に関わる取組み実施



日本道路の環境提案工法

カーボンニュートラルの実現、循環型社会の形成、生物多様性への配慮として貢献できる日本道路の環境工法をまとめました。

環境ビジョン	配慮項目	材料による環境配慮		施工時の環境配慮		供用時の環境配慮		備考
		配慮事項	工法	配慮事項	工法	配慮事項	工法	
カーボンニュートラルの実現	舗装技術	CO ₂ 排出低減	セミホットベープ ミニロードK	施工におけるCO ₂ 排出低減	セミホットベープ ミニロードK			製造時のCO ₂ 削減、車両走行抵抗低減
				施工におけるCO ₂ 排出低減	リフレッシュシールMix-H	路面温度上昇抑制	シャフトアルト クールアルト レインボーエコブロックBiz レインボーポラストーン ウルトラベープH	路面温度上昇抑制
				工程短縮	スーパーEpoアスコン スーパーポリアスコン	長寿命化 高耐久舗装	スーパーEpoアスコン スーパーポリアスコン スーパーEpoグース	施工工期の短縮によるCO ₂ 排出量の削減 高耐久化に伴う工事量の削減
循環型社会の形成	リサイクル技術	資源の再利用	再生As混合物					再生As素材、再生コンクリートの利用
		資源の再生活用	PETアスコン レインボーエコブロックBiz レインボーウッドMg					廃PETやグリーンズを再利用して商品に活用
生物多様性への配慮	種の多様性への配慮	廃棄物の低減および抑制	切削量の低減	低燃費施工機械 ICT施工	ND-IT施工 EyeThink みはり組	太陽光発電の採用		舗装改修時における廃棄物の低減
		生態系の多様性への配慮				法面緑化 透水性舗装 自然舗装	アメニファルトSシリーズ	生息生育空間の確保
生物多様性への配慮	種の多様性への配慮			低騒音・ 低振動施工	ND-IT施工			施工における野生生物の保全ならびに創出
				低騒音・ 低振動による製造		低騒音舗装 低燃費舗装	アメニファルトSシリーズ リフレッシュシールMix-H	プラントにおける野生生物の保全ならびに創出
						排水抑制	ND USTシステム NDハイドロシステム レインボーエコブロックBiz	内水氾濫抑制による野生生物の保全・創出